

最優秀賞

仙台市立幸町中学校（宮城県）

1年

鈴木

心晴

次に必ず会えるかはわからない。

気持ちよく別れよう。

母

「次に必ず会えるかはわからない。気持ちよく別れよう。」

家族とけんかし、無言で家を出ようとする朝、玄関の前で必ず言われるのがこの言葉だ。

ムシヤクシヤした気持ちを切り替えるのはなかなか難しい。でも、あの震災の後、大好きな人との最後の思い出が思わぬ一言となってしまうた人の悔しさや後悔を何度となく耳にした。母が言うのはきつとそういうことだろう。一緒にいるのがあまりに当たり前の家族や友達。その当たり前こそがとても幸せで大切なのだ、時々この言葉で気づかされる。冷やした頭で、それにしても母だってひどい口調だったと思い出し、次こそ同じ言葉を言い返してみようと考えたりもする。

受賞にあたって

小学五年生の妹と毎日のようにけんかが続いていたところ、母にこのことを言われました。東日本大震災の際に、祖母の家や学校の友だちが被災するなど、身近なところで大変な思いをした人たちが多くいました。こうした環境からか、母はいつもこのように言うのだと思います。現在、祖母とは一緒に住んでいて、母とともに今回の受賞をとても喜んでくれました。